

演奏曲解説

第1部 オリジナル、クラシックステージ

■市民のためのファンファーレ

アメリカの作曲家、コーブランドの作品です。1942年の戦時中に依頼された作品でしたが、コーブランドは「市民のためのファンファーレ」というタイトルとしました。初演は特別な機会がいいということで、1943年の「納税の日」となりました。原曲は金管楽器と打楽器だけの編成ですが、本日は木管楽器も加わった編曲となっています。

■「キャンディード」序曲

「ウェストサイド物語」で有名なバーンスタインの作曲です。キャンディードとは「おぼっちゃん」や「楽天主義」といった意味を含んでおり、主人公のキャンディードはその名のとおり性格でしたが、波乱万丈の人生の中で、やがては大切なものを見つけるというストーリーとなっています。この序曲は、その2時間のミュージカルに使っている曲を、ぎゅっと5分に凝縮したものとなっています。

■クラリネットキャンディ

その名のとおり、クラリネットがキャンディのような甘く、軽やかなメロディを奏でます。しかしながら、そういった曲というのは、えてして「聞くは易し、吹くは難し」でして、当楽団のクラリネットメンバーも非常に苦労いたしました。さて、甘く軽やかなメロディに仕上がりましたでしょうか。

■カドリーユ

吹奏楽にはコンクールと言われる大会があります。山梨県大会、西関東大会（群馬、新潟、埼玉、山梨）を経て、全国大会へと進みます。このカドリーユは吹奏楽コンクールの29年前の課題曲です。懐かしむメンバー（おじさん）もちらほら。さて、カドリーユとは18世紀フランスで発生した3拍子と2拍子が交互に出てくるダンスの曲です。18世紀のダンスと現代のコンクール、離れているようで音楽でつながっています。

■交響曲第9番「新世界より」第4楽章

1893年12月16日にこの曲はニューヨークで初演されました。日本はまだ明治時代です。ドヴォルザークがニューヨーク・ナショナル音楽院に音楽院院長職として招聘された1891年に製作を始めたこの曲は、チェコからアメリカへ渡った影響か、アメリカの黒人霊歌を思わせる旋律が入っており、まさに新世界を表現しているのかと思われまふ。本日演奏する終楽章は「Allegro con fuoco（燃えるような表現）」で始まり、「Allegro con fuoco」で終わります。吹奏楽版ならではの息吹を感じさせる作品となっています。

第2部 ポップスステージ

■ルパン三世

ルパン三世が世に登場して40年になります。クールでニヒルなルパンへの憧れが、長寿の理由かと。本日演奏しますのは1980年のルパン三世の主題曲です。ソロを奏でる華やかなビブラフォンに注目です。

■ポップカルチャー

アメリカやイギリスで流行ったポップ・ミュージックをメドレーにしたものですが、メドレー内の各曲が楽器紹介の形になっており、それぞれの楽器の特色を味わえます。

■ソング・オブ・ライフ

この曲は、後世に残さねばならない世界中の素晴らしい文化遺産・自然遺産を紹介してきた番組「世界遺産」のテーマ曲です。みなさんを、世界の雄大な風景や人類の悠久の歴史を感じさせる空間へいざないます。

■TV&シネマ・ヒッツ

「海猿」「ウォーター・ボーイズ」「三丁目の夕日」「グッド・ラック」というタイトルだけで、それぞれの映画のシーンを思い出される方も多いのではないのでしょうか。それら映画、ドラマの主題曲をメドレーにした作品です。

■キャンディーズコレクション

1970年代を代表するアイドルからこのキャンディーズは外せません。聞くと自然と踊りだす40、50代の方々がいるかも知れませんが、それほど国民に親しまれたグループだと言えます。ヒットした数々の中から「年下の男の子」「ハートのエースが出てこない」「春一番」、そして最後のシングルとなった「微笑みがえし」をメドレーとしています。